

深刻な教員不足！4月の始業時に「担任がない」

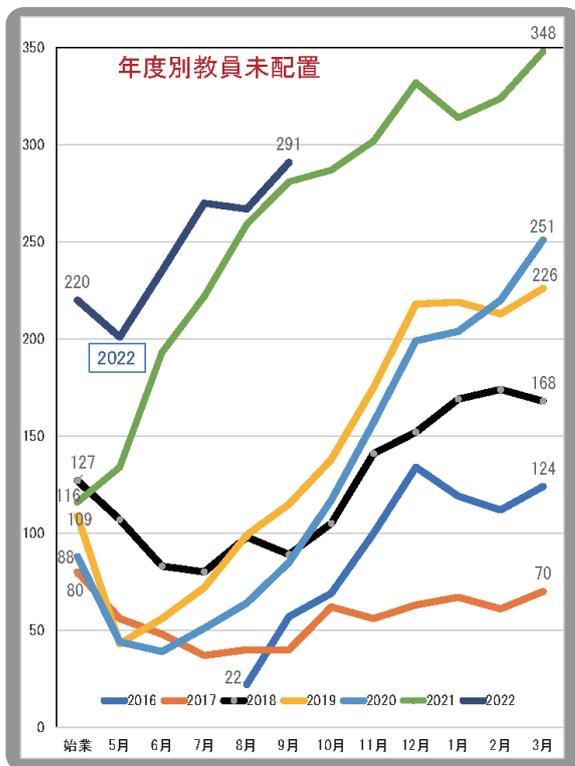
小学校 一步前進

来年度の教員採用合格者

前年度より136人増えました

県民運動と
党「提言」が
県政を動かす

今年度実施した2023年度公立小学校教員採用試験では、募集約620人に対して、合格者は914人。前年度（募集約640人・合格者778人）を大きく上まわり、合格者は136人も増えました。



左のグラフをご覧ください。県内の教員不足は深刻です。今年度ある小学校は、4月早々、教務主任が担任を兼務しました。出勤は朝7時半、帰宅は深夜で、「毎日がギリギリ」と語っています。この小学校では、再任用の教師が急きょ担任をカバーした学級もあります。児童たちから慕われ、良好な関係も築きましたが、新たにフルタイムの非常勤講師が確保できたため、2学期から別の学校に異動。それを突然伝えられた児童の中には泣き出す子もいました。校長は「子どもたちにとって、担任がころころ代わる（半年で3人目）のがいちばん困る。保護者も学校に不信感を持たないか心配。現場はいつ破綻してもおかしくない。欠員のしわ寄せで他の教員たちが潰れないでほしい」などと訴えています。

全教千葉や市民が様々な行動

教職員組合（全教千葉）が中心となり「教員未配置を考える県民の会」も結成され、教育フォーラム、県庁前宣伝、署名などがとりくまれています。

日本共産党も教員不足の解決へ「提言」

日本共産党は、①4月から教員定数に満たない事態をなくすため、教員採用試験の募集人数を大幅にふやす。②年度途中の産休・育休、長期療養休暇などの代替教員の速やかな確保へ、年度当初から県独自に教員を採用する。ことをなど提案しました。来年度の教員採用試験合格者増は、日本共産党が繰り返し求めてきた方向に沿ったものです。県民と党県議団の粘り強いとりくみで、ようやく、教員不足解消へ、一步、道が開かれます。

年度途中からの産休・育休の代替教員確保については、文科大臣も「年度当初からの任用を有益」と指摘しています。引き続き、教員不足解消にむけて全力をあげます。



県教委に「提言」手渡し、懇談
(左2人から：加藤英雄県議、みわ由美県議
浅野ふみ子党県副委員長)

「提言全文」こちら⇒

